

## 研究室近況

4月1日をもって、小島蓉子助教授が教授に昇進しまた専修大学専任講師に転出した宇都栄子氏に代わって、星島志保子氏が助手に就任。学科スタッフは、教授5名、助教授1名、助手3名の構成となり、藤本武教授を主任に新学期をスタートした。

昭和52年度特別講義の講師として、岩井弘融先生（青少年非行・犯罪）、北川隆吉先生（労働社会学）をおむかえした。

4月23日・24日の両日には1年次社会福祉原理論Iのオリエンテーションセミナーを、大学セミナーハウスで例年のように実施したが、今年度一年次は121名の多数であった。

5月10日、スウェーデン、ストックホルム大学社会研究所客員研究員として、1年半にわたって出張していた一番ヶ瀬康子教授が大きな研究成果を得て帰国。スウェーデンの風土の厳しさは、教授の瘦身を通じても推察されるのであった。

松本武子教授は8月、日本社会事業学校連盟会長として、ウィーンにおける第19回国際社会事業学校連盟理事会に出席。同じく8月に小島蓉子教授は、オーストラリア・ニュージーランドの社会福祉研修交換計画のコーディネーターとして出張、また10月には国際連合および国際社会事業学校連盟主催の「社会福祉セミナー」にリソース・パースンとしてインド、ニューデリーに出張した。

10月大正大学において日本社会福祉学会が開催され、スタッフが参加した。この理事会に於て、一番ヶ瀬教授は日本社会福祉学会代表理事に推され、むこう3年間の任を負うことになった。また、11月12・13両日には、第7回社会福祉教育セミナーが本校に於て開催され、日本社会事業学校連盟会長校及び事務局として松本武子教授以下、スタッフ全員で尽力した。

翌53年1月には、小島教授が国際リハビリテーション協会及びフィリピンリハビリテーション協会共催の「世界リハビリテーション法制会議」に出席のためフィリピンのマニラに出張した。

### <特記>

本年度から来年度にかけて、とくに特記すべきは、松本武子教授の退任である。45年間にわたり、本学

に奉職された同教授は、その半生をすごされた本学、とくに家政学部Ⅲ類に始まり、以後、社会変動にもなつて変遷した、本学科を定年退職によって去られた。

松本武子先生の、長年の研究教育に感謝する意味で53年度には、まず記念パーティが計画された松本武子先生が、約50年にわたって、社会福祉学科をもちたててこられたその功をたたえ、また先生の温いお教えの思ひ出などを語り合いながら、さらに新たなご出発<東洋大学教授就任>を、およろこびする意味での会である。新宿の京王プラザホテルで約300名参集の予定であり、そこでは、「松本武子先生——日本女子大学とともに50年」というスライドを、研究室一同で作製し、先生の今までのご努力を改めて一緒に思い出しながら、先生に対する思い出話を、各時代を代表した人によって述べられる計画である。また先生は、日本女子大学社会福祉学科の先生であられるばかりでなく、その活動は、日本社会事業学校連盟会長などの活動を通じて、日本の松本武子先生であられたといえる。その事を改めて確認し、記念し、先生を称えるために、「日本のケースワーク」を、先生の編で、昭和53年9月に刊行する予定となっている。その執筆者は、国際的な広がり、又国内における代表的な先生方の参加によって、きわめて多彩な顔ぶれとなっている。おそらく先生が何よりも念願された社会福祉教育にとって、又、先生の研究業績の中で最も大きかったアメリカケースワークの本格的な導入と日本における消化を記念するにふさわしいものとして刊行されるであろう。その構成と執筆メンバーは次の通りである。

序 .....	松本武子
記念出版に寄せて .....	アイリーン・ヤングハズバンド ヘレン・ハリス・パールマン メアリー・ハウク メアリー・マッケンジー

### 第1章 原理

1. ケースワークの基礎 .....
2. クライエントの福祉権 .....
3. 「生きがい」の分析 .....
4. ケースワークを支える日本のエトス

禅の人間観と現代西欧ケースワーク  
論との対話 …………… 小島 蓉子

## 第2章 歴史

1. わが国の教誨事業とケースワーク  
…………… 三吉 明
2. 農村方面委員制度定着への一側面  
…………… 大友 昌子
3. 小沢一・浴風会における十年間  
…………… 星島 志保子
4. 福山政一のケースワーク論 …… 一番ヶ瀬 康子
5. 救護法対象事例の検討 — 社会福祉研究  
における事例研究の必要について —  
…………… 宇都 栄子
6. 社会福祉制度の整備とケースワークの登場  
…………… 岩本 ミチ
7. 高度成長期以降の社会とケースワーク論  
…………… 吉田 久一
8. ソーシャル・ワーク研究の一断面  
…………… 仲村 優一

## 第3章 動向

### A. 全般

1. 社会事業方法論の統合をめぐる雑感  
…………… 福田 垂穂
2. ソーシャルワーク方法としての短期ケー  
スワークをめぐる — 社会福祉実践  
のために — …………… 山崎 道子
3. 施設ケア・ワーカーの専門性をめぐる  
方法展開上の課題 …………… 吉沢 栄子
4. ケースワーク過程における「契約」をめ  
ぐる問題 …………… 小松 源助
5. 社会福祉臨床論の方向 — ケースワー  
ク原理の展開として …………… 田村 健二
6. アジア地域におけるケースワーク理論と  
実践土着化の試み 日本の場合とフ  
ィリピンの場合 …………… 大谷 嘉朗
7. 日本の社会における国際社会福祉事業  
— ISSの仕事 …… 伊東 よね
8. 日本のケースワーク …………… 松本 武子

### B. 児童福祉

1. 児童相談所におけるケースワーク…秋 吉 澄子

2. 児童相談所におけるチームワーク  
…………… 上出 弘之
3. 児童相談所の周辺にある諸問題  
…………… 下平 幸男
4. 年少幼児の養育について — 2歳児 —  
…………… 吉田 栄
5. 学童保育施設におけるケースワーク  
— 社会福祉実践における専門技術の  
展開に関する考察 — …………… 須之内 玲子  
田中 美奈子
6. 児童の環境福祉計画について  
— 地域における遊びの環境を中  
心として — …………… 高城 義太郎

### C. 医療・心身障害

1. 医療の場におけるソーシャル・ケースワ  
ーク …………… 中島 さつき
2. 総合病院における医療社会事業の実際  
— 心身症とその社会的背景 —  
…………… 深沢 里子
3. 精神薄弱児を持つ母親をめぐる  
…………… 飯田 雅子
4. 精神障害者の就労援助 …………… 牧野田 恵美子

### D. 関連

1. 貧困とケースワーク …………… 藤本 武
2. 農村から見たケースワーク実践  
…………… 田端 光美
3. 社会福祉の実践活動と社会調査  
…………… 高月 東一

## 第4章 教育

1. 女性と社会福祉実践  
— 対人社会サービスへの貢献 —  
…………… 嶋田 啓一郎
2. ケースワーカーの養成と現任訓練  
— スーパービジョンと関連して —  
…………… 内田 節子
3. 保母養成教育における「実習」の現状と  
課題 …………… 小館 静枝

## 第5章 関連諸科学

1. 法律学とのかかわりあいの問題点を中心

- として ..... 佐藤 進
- 2. 全体社会の研究とケース・ワーク ..... 米地 実
- 3. 事例研究と調査対象者の主体性  
人間ひとりひとりの世界 ..... 中野 卓
- 4. 福祉と人間の心 ..... 平井 富雄
- 5. 老年期の死と社会福祉 ..... 那須 宗一
- 6. 子捨て、子殺し考 ..... 五味 百合子
- 7. 福祉の心 ..... 瀬川 清子

- 53巻4号
- 「小企業における賃金決定事情」 調査時報  
7月号(国民金融公庫)
- 「反失業斗争の一つとしての労働時間短縮問題」  
労働法律旬報 940号
- 「職場給食施設に関する調査」 労働科学 53巻  
12号
- <社会活動>
- 日本社会政策学会幹事
- 日本経済学会連合会理事

松本武子先生のご退職にあたって

- 1. 松本武子教授との出会い ..... 菅 支那
- 2. 感謝をこめて ..... 一番ヶ瀬 康子

佐藤 進 教授

- <編著>
- 「社会福祉の法律入門」 有斐閣
- <論文>
- 「摂津訴訟と社会福祉行政の課題」 ジュリスト特集  
632号 有斐閣
- 「家族と社会保障」 ジュリスト特集(家族)  
有斐閣
- 「戦後日本における失業保険の法と行政分析」  
社会政策学会年報21号 御茶の水書房
- 「老人福祉の視点」 国民生活 (国民生活セン  
ター)
- 「労働安全衛生法改正の意義と課題」 季刊労働法  
105号
- 「高齢化社会と政策的対応の現状と課題」 調査資  
料27号(老人問題特集) 東京都議会事務局

最終講義 ..... 松本武子

なお、松本武子先生がお去りになったあとの研究室  
をどうするかが残された者の誠に大きな課題であり、  
そのことの重みを痛感し、さらに先生の残された歴史  
をいかに継承していくかという新たな覚悟で、新学  
年度を迎える予定である。

今年度、研究室スタッフの研究業績を以下に記す。

- 松本武子教授
- <編著>
  - 「里親制度—その実践と展望」 相川書房
  - <論文>
  - 「我が国における社会福祉教育の現状と課題」  
ソーシャル・ワーク研究 相川書房
  - <社会活動>
  - 日本社会事業学校連盟会長
  - 国際社会事業学校連盟理事
  - 中央児童福祉審議会委員
  - 東京都児童福祉審議会委員
  - 埼玉県児童福祉審議会委員

- <社会活動>
- 日本労働法学会理事
- 東京都高齢者事業振興財団理事
- 全国市町村共済組合連合会審査会公益委員
- 国民年金審議会委員
- 一番ヶ瀬康子 教授
- <著書>
- 「父親事典」 (共同執筆) ぎょうせい
- 「日本婦人問題資料集成—保健・福祉」  
ドメス出版
- <報告書>
- 「スウェーデン社会福祉発達史に関する比較的研究  
(要約)」 私学研修福祉会へ提出
- 「スウェーデンにおけるサリドマイド被害児」  
サリドマイド児福祉財団いしづえへ提出
- <学会発表>

- 藤本 武 教授
- <論文>
  - 「婦人労働保護と男女差別撤廃問題」 労働科学

日本社会政策学会・生活問題分科会において「スウェーデンの公的扶助」について発表

日本生活学会において「スウェーデンの住宅保障と社会施設」について発表

日本家政学会・関東部会において「スウェーデンの市民生活と社会福祉」について発表

小島 蓉子 教授

< 著書 >

「身体障害者福祉の法律」(佐藤・児島編「社会福祉の法律入門」有斐閣新書)分担執筆

< 英文論文 >

“Disabled Individuals in Japanese Society”  
Rehabilitation World Vol. 3, No. 2, Rehabilitation International U.S.A., Summer 1977.  
Social Background, Highlights, and Further Tasks of the Newly Amended Vocational Rehabilitation Legislation: The Physically Handicapped Persons Employment Promotion Law, The Ministry of Labour, 1977.

“Development and Further Tasks of Vocational Rehabilitation Legislation in Japan”,  
The Second International Congress of Rehabilitation Legislation in Manila, Philippines, Jan. 18, 1978.

< 研究調査報告書 >

「職業リハビリテーション従事者の実態と課題」

(編著)日本肢体不自由児協会

「心身障害者雇用に関する海外事情調査報告書」身体障害者雇用促進協会

「オーストラリア・ニュージーランドの社会福祉」

オーストラリア社会福祉研究会

< 学会発表 >

第1回リハビリテーション交流セミナーにて、「リハビリテーション体系化の課題」を発表

第2回世界リハビリテーション法制会議において、日本代表論文として“Development and Further Tasks of Vocational Rehabilitation Legislation in Japan”を発表

< 海外出張 >

オーストラリア・ニュージーランドの社会福祉研修交換計画のコーディネーターとして出張

国際連合、及び国際社会事業学校連盟主催の「社会

福祉政策セミナー」にリソース・パーソンとしての参加が依頼され、インドのニューデリーに出張

国際リハビリテーション協会及びフィリピンリハビリテーション協会共催の「世界リハビリテーション法制会議」に、日本代表論文の発表が要請され、前記論文をたずさえて出張

< 社会活動 >

(国際水準)

国際リハビリテーション協会、職業更生専門委員会委員、ギリシャ・リハビリテーション研究所委員  
(国内水準)

労働省身体障害者雇用委員会委員

大学基準協会、社会福祉学教育研究委員会委員

米地 実 教授

< 編著 >

「社会学」財団法人私立大学通信教育協会

< 論文 >

「神社模倣に関する調査」日本女子大学文学部紀要26

田端 光美 助教授

< 論文 >

「社会福祉教室」(仲村・三浦・阿部編)有斐閣  
分担執筆

「婦人と社会保障」賃金と社会保障 729・730  
合併号

< 報告書 >

「農村地域における必要整備量の算定手法に関する研究」(国土庁委託研究)

「漁家の生活構造と生活環境に関する研究 第1報」  
農林水産応用研究補助金を受ける(54年まで3年間)主査 広島工業大学 地井昭夫

大友 昌子 助手

< 著書 >

「特別児童の里親委託」松本武子編著「里親制度—その実践と展望」相川書房

「社会学」(米地実・宇都栄子・岩本ミチと共著)  
八千代出版

岩本ミチ 助手

< 著書 >

「社会学」(共著) 八千代出版